ふるさと学習推進プロジェクト
～地域（ふるさと）を語れる子に、地域（ふるさと）を誇れる子に～

学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数（赤字は内学校運営協議会委員数）			地域学校協働本部
竜王町立	竜王西小学校学校運営協議会	地域学校協働活動推進員	５ 名	２ 名	竜王町地域学校協働本部
竜王西小学校	平成30年4月1日 設置	地域コーディネーター	１ 名	０ 名	

取組の背景及び目標や目指す姿

背景

本校の校歌には地域の宝物である「鏡山」「善光寺川」「アエンボの花」が歌詞として歌われているが、子どもたちはそれらについてほとんど知らない。一方、本校の学校運営協議会は平成30年に設立したものの、子どもたちの課題に対する熟議に終始し、具体的なアクションがないまま停滞している状況であった。そこで令和2年度より学校と地域が一体となって展開する「ふるさと学習推進プロジェクト」を立ち上げた。

目標や目指す姿（学校）

地域の教育資源を活用した学習を教育課程に組み込み、社会に開かれた教育課程の具現化をめざす。

目標や目指す姿（地域）

地域（ふるさと）を愛し、地域のことを誇りに思い、将来地域に帰ってきてくれる子。そして明るい地域社会を創造する子。

竜王西小学校学校運営協議会　の特徴

委員の立場や属性等

- ☐ 地域学校協働活動推進員
- ☐ 保護者・PTA関係者
- ☐ 民生児童委員
- ☐ 放課後児童クラブ関係者
- ☐ 自治会関係者
- ☐ 学校支援活動を行う者
- ☐ 地域・家庭支援活動を行う者
- ☐ 元小学校長

など、計　11 名で構成

年間平均　6 回程度開催

効果的な運営の工夫

学校運営協議会委員のそれぞれの持ち味を生かすべく、「自然部会」「歴史部会」「地理・創作部会」を編成し、それぞれの分野で具体的なプランを計画し、その運営実施のために必要なゲストティーチャーや活動支援ボランティアを地域から募り、多くの地域住民の参画のもと、充実したふるさと学習が展開できる体制づくり（活動の道筋）が整ってきている。

特徴的な取組と成果・効果

取組

学校運営協議会

校歌に歌われている3つの地域の宝「鏡山」「善光寺川」「アエンボの花」のうち自然や歴史遺産に恵まれている「鏡山」を教材化することからプロジェクトを始めた。委員それぞれの持ち味を生かし、自然体験活動、歴史紙芝居制作、古墳見学等のプランが提案された。

「鏡山」の教材化を協議

地域学校協働活動

多くの地域ボランティアの支援を受けて、2年生が鏡山の自然を満喫した。ウラジロを使った遊びや花崗岩が露出した崖のぼりに挑戦したり、鳴谷渓谷の景観や水の流れる音を楽しんだりした。生活科の「自然遊び」の拡大版として実施した。

「鏡山」を満喫する2年生

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

①熟議により「めざす子ども像（育てたい子ども像）」を明確にし、学校と地域が目標を共有する。
→「地域（ふるさと）を語れる子に、地域（ふるさと）を誇りに思う子に」というスローガンの設定
②目標達成のための具体的なアクションを学校の教育課程と関連させて、学校側からも提案する。（双方向の取組）
→「地域の教育資源（人・もの・こと・歴史等）をフルに活用した「ふるさと学習（地域学校協働活動）」の推進
③学校の校歌に歌われている「鏡山」「善光寺川」「アエンボの花」を地域の「宝物」として教材化（体験学習化）する。
④地域学校協働活動推進員が連絡調整役となり、「ふるさと学習」に必要になる人材の募集や掘り起こし、マッチングを行う。
⑤必要な研修や打合せ等を確実に行い、子どもたちと地域住民との豊かな関わりの中で、有意義な体験活動を行う。

成果・効果

①「ふるさと」をキーワードに、めざす目標と具体的な手立てを学校と学校運営協議会および地域学校協働本部がしっかりと共有できた。
②カリキュラムマネジメントの視点から、ふるさと学習を教育課程の中に織り込み、かつ地域住民との豊かな関わりの中で、子どもたちの体験学習を充実させている。（社会に開かれた教育課程の具現化）
③地域学校協働本部統括マネージャーや推進員が、ふるさと学習に参画する地域ボランティアに対して、事前研修を行ったり、他の取組に誘ったりと、指導者・支援者としての人材育成の視点も大切にしながら、地域ボランティアの裾野がひろがるようきめ細かに活動を行っている。
④ふるさと学習は、子どもたちの心に響き、郷土に対して愛着と誇りをもつ姿が見られるようになってきた。